

Title	金利と為替レートについての考察
Sub Title	
Author	ラディック恵子(Radeitsuku, Keiko) 太田康信
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第656号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0656

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 ラディック 恵子

主査 太田 康信

副査 関谷 章

所属ゼミナール 太田 康信 研

鈴木 貞彦

金利と為替レートについての考察

現在、世界中の金融機関で決済されている、先物為替レートは将来スポットレートの指標であるが、実際に一定期間後になってみると、実際には機能していない。金利平価により、説明のつかない為替レートの動きは何なのか。金利で為替レートの動きはできないだろうか。金利を金利平価からは離れた別の視点でみてみれば何か発見があるかもしれない。というような問題意識のもとにこの論文を書いている。

第一章では、現在までの為替レート決定理論のサーベイをし、これまでにどのような理論があったか、どのような決定要因があったかを書いている。

第二章では、第一章をふまえて、数ある決定要因の中から何故金利を選んだかを説明し、分析へ導いている。分析には重回帰モデルを用い、金利と為替レートの中から得られるすべての情報（例えば、内外金利差・金利の期間構造・将来予想金利・為替レートの直先スプレッドなどである）を用いて、為替レートの動きを説明できるか、為替レートと金利はどちらがどちらに依存しているか、又は金利の説明力があるのはどれくらいの期間であるかなどをチェックし、それらが為替レートの予想に使用できるものかという分析を行っている。